

Japanese Utility Model Publication No. S59-114106

Title : PIMPLE REMOVER
Publication Date : August 1, 1984
Publication Number : S59-114106
Filing Date : January 21, 1983
Application Number : S58-7488

What is claimed is :

1. A pimple remover comprising:
a stick-like holder (2);
a thin spatula-shaped member (6) extended at an end of the holder (2);
an opening (7) formed about at a center of the member (6); and
a protective member (8) provided at the opening (7) as a clasp, and forming an insertion hole (9) for a pimple inside.
2. The pimple remover as defined in claim 1, wherein the protective member (8) is calked to the opening (7) by a pressing process.
3. The pimple remover as defined in claim 1, wherein a plate-like pressing portion (3) is formed at a middle of the holder (2).
4. The pimple remover as defined in claim 1, wherein a knurling process is performed on a surface of the holder (2) to prevent from slipping out of fingers.
5. The pimple remover as defined in claim 1, wherein a cotton attachment site (10) is provided at an opposite side of the holder (2) to the spatula-shaped member (6).
6. The pimple remover as defined in claim 5, wherein a plurality of ridges (11) are formed on a surface of the cotton attachment site (10) as flanges for winding cottons (12).



明 細 書

1. 考案の名称

にきび潰し具

2. 実用新案登録請求の範囲

1 棒状をなす把持部（２）と、

同把持部（２）の一端に形成した薄肉のへら部（６）と、

同へら部（６）のほぼ中央に透設した穴（７）と、

同穴（７）に対し鳩目状に取り付けられて、内部をにきび挿入孔（９）とした保護部材（８）とからなるにきび潰し具。

2 前記保護部材（８）は穴（７）に対してプレス加工等によつてかしめ留めされていることを特徴とする実用新案登録請求の範囲第１項に記載のにきび潰し具。

3 前記把持部（２）の中央部には平板状の押え部（３）が形成されていることを特徴とする実用新案登録請求の範囲第１項に記載のにきび潰し具。

4 前記把持部（２）の表面には指のすべりを防

(1)



止するためのローレット加工がなされていることを特徴とする実用新案登録請求の範囲第 1 項に記載のにきび潰し具。

5 前記把持部 (2) のへら部 (6) の反対側端には綿取付部 (1 0) を形成したことを特徴とする実用新案登録請求の範囲第 4 項に記載のにきび潰し具。

6 前記綿取付部 (1 0) の表面には脱脂綿 (1 2) 等を巻き付けるためのフランジ状をなす複数の綿取付突条 (1 1) を設けたことを特徴とする実用新案登録請求の範囲第 5 項に記載のにきび潰し具。

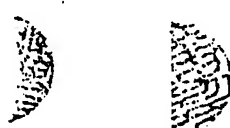
3. 考案の詳細な説明

技術分野

本考案はにきび潰し具に関する。

従来技術

従来、にきび潰し具は耳搔き状に形成され先端部に設けたへら部にプレス加工等にて穴を打ち抜き、にきびを挿入して潰すためのにきび挿入孔を透設していた。しかし、打ち抜きの際、穴部周縁



に所謂“バリ”が生じるため、使用時に肌を痛めたり、バリに膿等が溜つて不衛生な状態になるという欠陥があつた。

目的

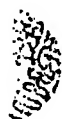
本考案の目的は上述した欠陥を解消し、使用時に肌を痛めることなく、かつ衛生的なにきび潰し具を提供することにある。

実施例

以下、本考案を具体化した一実施例を図面に従つて説明する。

1は本考案のにきび潰し具全体を示し、耳掻き状をなす金属製の細長い棒状にて形成されている。2は同にきび潰し具1の棒状をなす把持部であつて、その中央部には平板状の押え部3を形成している。なお、把持部2の表面はローレット加工が施され、これを指で掴んでにきび潰し具1を扱うときに、指が滑ることを防止している。

4、5は前記把持部2の前後両端から延びる一対の円柱状部であつて、その直径は前記把持部2より小さくなつている。6は前方の円柱状部5の



前端に設けた薄肉のへら部であつて、そのほぼ中央には第 8 図に示すように、プレス加工等によつて穴 7 を打ち抜いたのち、円筒状の保護部材 8 をかしめ溜めして穴 7 の内周縁部全体を上下両方向から挟むようにして表裏両部が滑らかな円弧 8 a, 8 b をなすように鳩目の様に覆い、にきび挿入孔 9 を形成している。従つて、同にきび挿入孔 9 の内周縁部の表面は、従来製品とは異つて、滑らかになつている。

10 は後方の円柱状部 5 の後端に形成した円柱状の綿取付部であつて、その表面には複数（本実施例では 8 本）のフランジ状をなす綿取付突条 11 を等間隔に設けて、脱脂綿 12 等を巻きつけ得るようになつている。

さて、上記のように構成したにきび潰し具の作用を説明する。

にきびを潰すには、へら部 6 のにきび挿入孔 9 をにきび上にあてて、押え部 3 を指で強く押圧すればよい。このとき、穴 7 の内周縁部はピン 8 で被覆してあるため、穴 7 加工時に生じたバリが肌



に触れて傷つけることはなく、膿がバりに溜ることもない。

また、潰れたにきびから出血した場合は、綿取部 10 に取付けた脱脂綿 12 にて払き取ることができる。

以上詳述したように、本考案は棒状をなす把持部 2 と、同把持部 2 の一端に形成した薄肉のへら部 6 と、同へら部 6 のほぼ中央に透設した穴 7 と、同穴 7 に対し鳩目状に取り付けられて、内部をにきび挿入孔 9 とした保護部材 8 とにより、使用時に肌を痛めることなく、かつ衛生的であるという効果を奏する。

4. 図面の簡単な説明

第 1 図は本考案のにきび潰し具を具体化した正面図、

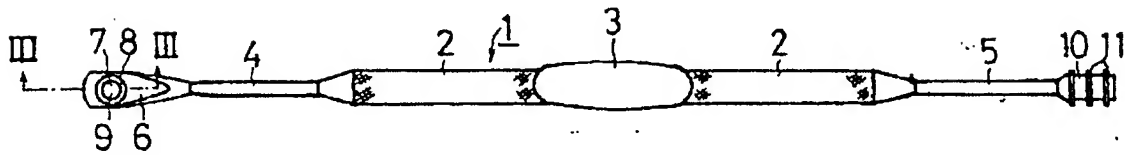
第 2 図は同じく側面図、

第 3 図は第 1 図におけるⅡ—Ⅱ線上における一部拡大断面図である。

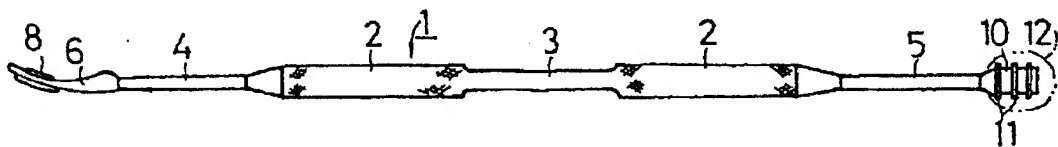
把持部 2、へら部 6、穴 7、ピン 8、にきび挿入孔 9。

後図面無し

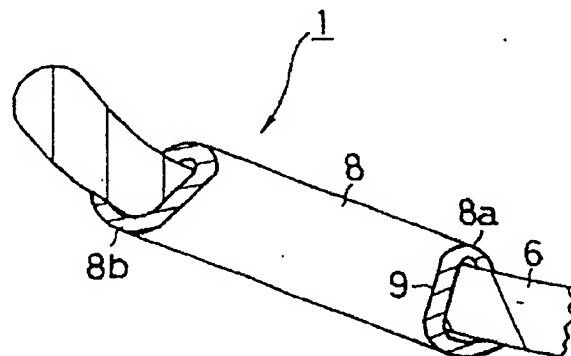
第 1 図



第 2 図



第 3 図



印刃物開発センター

博宜